



50:21 「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、彼らを聖絶せよ。主の御告げ。すべて、わたしがあなたに命じたとおりに、行なえ。」

50:22 「国中には戦いの声、大いなる破滅。

50:23 万国を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ。どうして国々の恐怖となったのか。

50:24 バビロンよ。わたしがおまえにわなをかけ、おまえは捕えられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられてつかまえられた。おまえが主に争いをしかけたからだ。

50:25 主はその倉を開いて、その憤りの武器を持ち出された。それは、カルデヤ人の国で、万軍の神、主の、される仕事があるからだ。

50:26 四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。

50:27 その雄牛をみな滅ぼせ。ほふり場に下らせよ。ああ。哀れな彼ら。彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。」

50:28 聞け。バビロンの国からののがれて来た者が、シオンで、私たちの神、主の、復讐のこと、その宮の復讐のことを告げ知らせている。

50:29 射手を呼び集めてバビロンを攻め、弓を張る者はみな、これを囲んで陣を敷き、ひとりものがすな。そのしわざに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。

50:30 「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士もみな、断ち滅ぼされる。主の御告げ。」

50:31 高ぶる者よ。見よ。わたしはあなたを攻める。万軍の神、主の御告げ。あなたの日、わたしがあなたを罰する時が来たからだ。

50:32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町に火をつける。火はそのまわりのものをすべて焼き尽くす。」

黙示録においては、神に敵対するこの世の勢力をバビロンと呼んでいます。バビロンはそのような象徴でもありますので、その滅亡を詳しく預言されているのだと思われま

「おまえが主に争いをしかけた」と書かれています。その根底にあるのは「高ぶる者」であるということです。この世の問題点は、そのまま人間の問題点ですが、それは神なしで生きられるという高ぶりです。自然科学にしても、神なしで高等生物が存在しておりそれが解明できるという高ぶりがあります。社会学にしても神なしで社会が良くなるという高慢、人文科学にしても神なしで解明できるという高慢があると言わざるを得ません。

神が創造された世界なのに、神を計算に入れなくて、解明、解決、発展できるというのは人間の高慢でしょう。バビロンの滅亡を思うとき、人間はあくまでも造られたものに過ぎないのだということに気づく必要があります。

神に対する、この世の高慢なあり方に影響されていないか、考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

